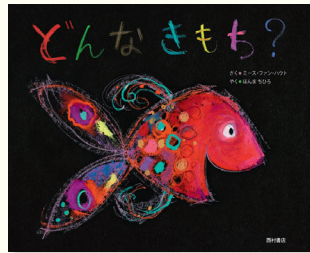


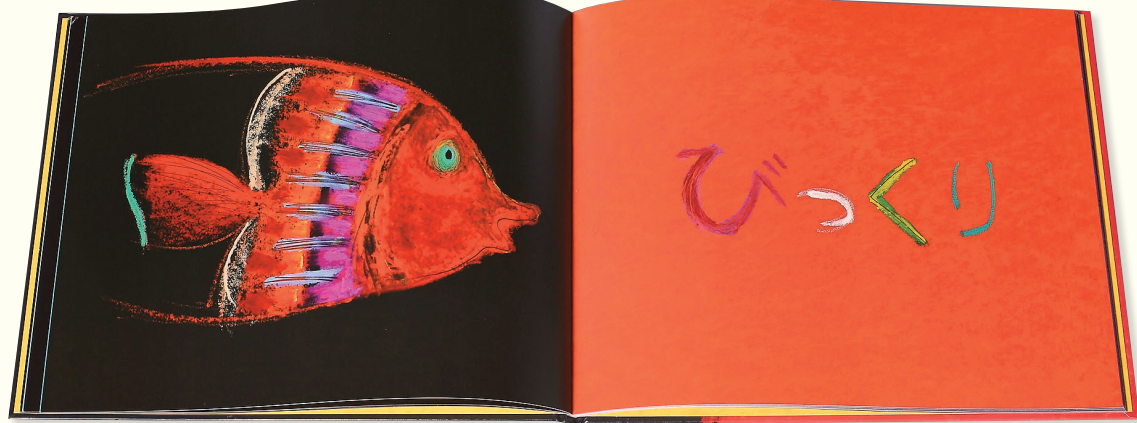
お気に入りの絵本



『どんなきもち?』

ミース・ファン・ハウト／作 ほんまちひろ／訳
西村書店 本体1300円+税

わくわく、うきうき、しょんぼり、むしゃくしゃ……。カラフルな魚たちと文字が鮮やかに融合し、小さな子どもから大人まで、気持ちを表現する面白さを伝えてくれる絵本。



日本語版の文字もハウトさんが描いている。

絵本のおえかきワークショップ

有隣堂たまプラーザテラス店でほんまさんのワークショップが開催。初対面の子も同士、最初はドキドキしつつ、絵で気持ちを表現することを大いに楽しみました。



3 いよいよおえかき。いろいろな感情をイメージしながら魚の絵を描いていきます。



1 まずはほんまさんによる『どんなきもち?』の読み聞かせから。子どもたちは興味津々。



5 お互いの絵を鑑賞してから全員で記念撮影をして終了! みんなうれしそうです。



4 描いた絵を壁に貼り、どんな気持ちを描いたか、発表。個性豊かな魚たちにびっくり。



2 クレヨンを使って準備体操。線を描くうちに、みんなの心もほぐれていきます。

行動につながる絵本を

現在、ほんまさんは『どんなきもち?』を使った「おえかきワークショップ」を各地で行っています。

「この活動をはじめたのは、私が主宰する平和のアート展に来てくれた方の一言がきっかけでした。自分も平和への思いがあるけれど表現することができなくて、と言われて。この絵本なら年齢を問わず、いろんな方が気持ちを表現するヒントになると思っただけです」

そこで、ハウトさんのホームページで紹介されている彼女のワークショップや考え方を参考にしながら、日本の子どもたちに合うやり方を考えたそうです。「おえかきワークショップ」は、すでに10回目に。

「私自身、子どもたちが混ぜた色のきれいに、人間の体の中にはこんな美しいものが詰まっているのかと感動することがあって。その場で会って1時間ほどしか一緒に過ごせないですが、絵を見た瞬間、とても愛おしい気持ちになるんです」

子どもたちが絵を描く間、「面白いね!」「それはどんな気持ちで描いたの?」と語りかけていくほんまさん。その言葉に最初は緊張したり、照れくさそうだった子どもたちの顔が輝き出し、発表会では誇らしそうな笑顔になっているのが印象的でした。「そうやって心を伝え合うことがアートの根本であり、生きていく上で大切なことだと感じています。絵本を読んでも、心と体を動かす、行動につながる絵本の魅力をこれからも伝えていきたいです」

アーティスト・インタビュー

今、注目のアーティストにお気に入りの作品についてお話を伺うコーナーです。



心を伝え合うことが
アートの根本であり
生きていく上で大切なこと

絵本作家・詩人
ほんまちひろ

Chihito Honma



1978年神奈川県生まれ。東京学芸大学大学院修了。2003年絵本作家クラブ第5回絵本フェスタ奨励賞、2004年『詩画集いいねこだった』(書肆楽々)で第37回日本児童文学者協会新人賞受賞。作品に『おむすびにんじやのおいしいごはん』(土井善晴／監修 リーブル)など。www.honmachihiro.com



『ともだちになろう』
ミース・ファン・ハウト／作
ほんまちひろ／訳
西村書店 本体1200円+税

ともだちと出合って遊んでけんかして……うまくかなおることができるかな? ユーモラスな動物たちがともだちづくりを応援してくれる。ほんまさんが翻訳を手かけたハウト作品第1弾。



翻訳のために独自の音符表(右)をつくり、和訳を貼って言葉を厳選していったそう。



日本語の豊かさを生かして

自分の気持ちを伝えるのって結構むずかしい……そんな子どもたち、大人たちにカラフルな魚たちが感情を言葉で表現する面白さを教えてくれる絵本が今、評判を呼んでいます。『どんなきもち?』の作者はオランダの絵本作家ミース・ファン・ハウトさん。子どもの感情に寄り添った新たな表現で、世界的に高い評価を得ているハウトさんの絵本に、詩人で絵本作家のほんまちひろさんが訳をつけました。

「ハウトさんの絵本は小さな子にもわかりやすくシンプルな言葉で書かれているだけに、どう翻訳するかはすごく考えました。『どんなきもち?』には喜怒哀楽さまざまな言葉が出てきます。そこで、気持ちを表す言葉を五十音順に掘り起こすことから始めました。すると、たとえば「いらいら」「いじいじ」といった口を横に開ける「い行」の言葉は力が入った気持ちなんだとか、ひらがなの音と感情が意外につながっていることに気づいて。そうして書き出した言葉の中から、選んでいきました」

もう1つ、大切にしたのは、絵と言葉を合わせたときのイメージだといいます。「譜面がいい」という言葉を聞いたことがあって。見て気持ちがよい楽譜は、演奏しても美しいそうなんです。ならば、作曲するように絵本の言葉を考えてみたらどうかしら? と……」

さらに音読したときのメロディや、リズムが感情と合っているかを知るために、和訳を音符にして、言葉を紡いでいったというので驚きです。